

所長だより第56号 平成30年1月5日

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<http://www.uminoko.jp/>

新しい「うみのこ」の建造状況 その3

【所長 青木 正士】

3学期がスタートし、今年度も残り3ヶ月となりました。びわ湖フローティングスクールでの現「うみのこ」による児童学習航海は、残り19航海となりました。これまでに、3,279回もの児童学習航海を行ってきましたが、いよいよラストの航海が近づいています。終航式は3月1日(木)大津港で予定しています。

冬の航海は、北西の強風が吹きやすく、琵琶湖も荒れ模様になりやすいのですが、穏やかなときは空気が澄み渡り、周囲の山々の雪景色がとても美しく感じられます。雪見船が運航されるのも、この景色を見れば納得させられます。しかし、冬将軍は容赦がなく、なかなか穏やかな日が続けてくれないので、これからの航海に参加する児童の皆さんは、体調を整え天候の良い巡り合わせで乗船できるといいですね。



さて、新「うみのこ」ですが、年末の平成29年12月28日に命名・進水式を行いました。命名式というのは新しい船に名前をつける式のことです。船名は、すでに「うみのこ」と決められていましたが、船を前にして「あなたは『うみのこ』という名前ですよ」という意味で、青木洋教育長が改めて船名を宣言されました。

進水式は、ドックに水を注水する式です。スロープ式のドックでは、綱を切ると船が海に向かって滑っていき、水しぶきを上げて海に浮かぶ華々しいイベントになります。しかし、「うみのこ」の場合は、琵琶湖と水門によって仕切られた乾ドックの中で組み上げられているため、注水のみが進水式となりました。進水式が終われば、完成したと思われるでしょうが、実はそうではありません。

進水式は、船殻(せんこく)といって船体の外側が出来上がった状態で行います。発電機やスクリューなどの主要な機器は搭載していますが、配線や配管、操舵用のレバーなどもまだ装備されていません。内装を含め、船体に必要な装備を設置する工事を艀装工事といいます。今後も、ドックから出て、琵琶湖に浮かんだ状態で艀装工事が引き続き行われます。

新機能について、今回もいくつか紹介しましょう。船の速度や風速、魚群探知機、湖の深さなどの航海情報は、これまで見学室まで行って操舵室を見て確認しないとわからないことがありましたが、多目的室の専用モニターに表示され確認することができるようになります。他に、多目的室には電子黒板(プロジェクター)、学習室兼食堂には学習用モニター8台が設置されており、船内LANと接続されているので、様々な映像・画像を映して大勢で一緒に学習することができます。中でも、水中カメラや船外カメラ、デジタル顕微鏡の画像を表示することができるのは、これまでにないことです。船内無線LANをさらに有効に活用するため、タブレットPCが35台用意され、児童の皆さんが、調査したり、記録したり、まとめたりして、すぐに船内で発表・交流ができるように設定しています。

しかし、これまでから本物に学ぶのが「湖の子」体験学習です。実物を眺めたり、見たり、触ったりして、多くのことを感じながら、疑問に思ったことを調べるツールとして効果的に活用されることを願っています。